

第3学年社会科（公民的分野）学習指導案

授業者 安来市立第三中学校 松浦 宏道

1 単元名 わたしたちの生活と地方自治 ～自分たちが安来市のためにできることは何か～

2 単元の目標

- ・財政健全化などのさまざまな課題を抱える安来市の現状を資料を基に調べ、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利について理解させる。
- ・今後の安来市の発展のために、課題の解決策を多面的・多角的に考察し、意見交換して、より良い住民自治のあり方を構想させる。
- ・地方自治の学習に関心を持ち、安来市の政治の課題の解決に向け主体的に学ぼうとする態度を育てる。

3 単元設定の理由

（1）教材について

本単元は、中学校学習指導要領（社会科編）の内容（2）大項目C「私たちと政治」の（2）「民主政治と政治参加」ア（エ）とイに基づき設定した。ここでは、地方自治の基本的な考え方について理解するとともに、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利について理解することをねらいとしている。また、身近な地方公共団体の政治を取り上げ住民の権利や義務に関連付けて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することもねらいとしている。地方公共団体は、財政課題をはじめ、その他にも少子高齢化や過疎、経済・産業・交通、暮らしなど、解決を迫られるさまざまな課題を抱えており、安来市も同様である。これらの課題を解決するためには、一人一人が身近な地域の政治に関心をもつことが必要である。

また、単元を通して「協働」という概念の習得も目指している。本単元で扱う「協働」とは、住民・行政・住民&行政という3つの主体が相互の信頼と理解に立ち、「安来市の課題を、どのように解決すべきだろう」という共通目標に向かって協力することである。

（2）生徒について

省略

（3）指導にあたって

本単元では、住みよい町づくりの視点から、安来市のゴミ処理の課題に注目し、その解決に向けて予算（希少性）・将来性・他市との比較に着目して、多面的・多角的に考察・構想し、根拠を基に分かりやすく表現することで深い学びを実現しようと考えている。さらに、生徒同士の関わり合いを生かした学習が進められるように、グループで考えたり、フリップでの発表を基に全体で意見交換をしたりするなどの対話的な学びの視点も取り入れている。また、思考を深めるためのワークシートの活用とともに、資料の読み取りから思考を深めることや複数の資料を通して課題を考えることが苦手な生徒には、適切な支援を行いたいと考えている。

本時の学習では、「ゴミ処理施設建設の問題について」の解決策を話し合って提案していく際に、主体は「住民か、行政か」を考えさせ、「協働」の概念を習得することで解決の一応の終着点とする。さらに解決の主体はどちらか、両者の割合やその割合を決定した理由、具体的な解決策を教師が問い返すことで、単元を貫く問いを自分事として捉えることができる。そして、学んだ知識や技能を活用して問題を解決する活動を通して、深い学びの実現に近づくことができると考える。

- ・財政健全化などのさまざまな課題を抱える安来市の現状を資料を基に調べ、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利について理解させる。
- ・今後の安来市の発展のために、課題の解決策を多面的・多角的に考察し、意見交換して、より良い住民自治のあり方を構想させる。
- ・地方自治の学習に関心を持ち、安来市の課題を通して、より良い地域を築いていくため何が必要かを主体的に学ぼうとする態度を育てる。

地方公共団体の抱える課題をふまえてより良い地域社会を作っていくためには、地域社会に関心をもち地方自治の発展に貢献しようとする自治意識をもつことが大切である。そして「協働」という概念を活用して、より良い地域社会を作るためにできることを考え出していく必要がある。

効率と公正，対立と合意，希少性，将来性に着目して，地方公共団体の政治・経済・財政・産業・くらしなどを関連付けて地域的な課題をとらえ，住民の権利や義務をふまえて「協働」という考え方を基に住民自治の取組を多面的・多角的に考察し，構想する。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時(本時)	第7時
各時間の問い	○なぜ、地方自治は「民主主義の学校」と言われているのか？	○自分たちの住む安来市の課題にはどんな事があるだろうか。	○安来市のゴミ処理問題を解決するためには、どのようなしくみと方法があるのだろうか。	○安来市に新たにゴミ処理施設を作ることの利点と課題とは何だろうか。	○安来市のゴミ処理施設建設について自分は賛成か反対か。	○安来市の課題を、どのように解決すべきだろうか？ ～ゴミ処理施設の建設をめぐる問題を通して～	○安来市の課題を、どのように解決すべきだろうか？
評価規準	(ウ)						
	(ア) ①	(ア) ②	(ア) ③	(ア) ④	(イ) ⑤	(イ) ⑥	(イ) ⑦
各時の個別知識	○都道府県・市町村(区)では自分たちの手で地域をより良くするための仕事を行っている。	○財政面で自主財源が約3割ちょっとしかない。 ○福祉関係と公債金の支出割合が高い。 ○身近な生活で困る課題もある。 ○ごみ処理施設がなくて不便だ。	○身近な生活に深くかかわる地方自治では、選挙で首長と議員を選ぶ。 ○直接民主制の考え方を取り入れた直接請求権が認められている。	○利点 ・分別の手間がかからない。 ・ゴミ処理を委託する経費が浮く。 ・将来のことを考えないと必要。 ○課題 ・財政面では厳しい。 ・他にやらないといけない大きな問題がある。	賛成 財政面の問題があるが、今後も委託の費用を払い続けることは課題であり、将来的なことも考えると作るべきだ。 反対 財政健全化が叫ばれる中で、多額の費用を使って新たな施設を建設するべきではない。	○ゴミ処理施設建設の是非の発表を聞き、その理由について理解する。また、「協働」の考え方も理解する。	○安来市を住みよい町にしていこうために他の課題を見つけ、解決の手立てを理解する。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時(本時)	第7時
各時の 見方・ 考え方	○地方自治の役割りを、身近な生活と関連付けて考える。	○安来市の課題を資料から読み取ったり、地域の人の声も参考にしたりしてまとめる。	○地方公共団体のしくみを資料から読み取る。 ○住民にはどのような権利があるのか表から読み取る。	○ゴミ処理施設を作る利点や課題を複数の資料を関連付けて読み取る。	○ゴミ処理施設建設に賛成か反対かについて、予算・将来性・他市との比較などの点から比較・考察し、根拠をもって判断する。	○効率と公正、対立と合意、希少性、将来性に着目し、安来市の課題を多面的・多角的に考察・構想する。	○安来市の他の課題を効率と公正に着目して、「協働」という考え方を活用し、多面的・多角的に解決策を考察する。
資料	・教科書 ・資料集	・R2 安来市 予算概要 ・安来市広報「どげなかね」 ・安来市 HP	・山陰中央新報 安来市長選 松江住民投票 ・教科書・資料集	・安来市一般廃棄物処理基本計画 ・ゴミ分別表 (松江, 安来)	・R2 安来市予算概要 ・ゴミ分別表 ・安来市一般廃棄物処理基本計画	・R2 安来市予算概要 ・ゴミ分別表 ・安来市一般廃棄物処理基本計画	・これまで学習した資料とワークシート

安来市の課題をどのように解決すべきだろうか？

くゴミ処理施設の建設をめぐる問題を通してく

5 社会科における評価規準

観点	(ア) 知識・技能	(イ) 社会的な思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	財政健全化などのさまざまな課題を抱える安来市の現状を、資料を基に調べる。 地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利を理解する。	今後の安来市の発展のために、課題の解決策を多面的・多角的に考察し、意見交換して、より良い住民自治のあり方を構想する。	地方自治の学習に関心をもち、安来市の課題を通して、より良い地域を築いていくため何が必要か意欲的に学ぼうとしている。
単位時間における具体的な評価規準	①地方公共団体の仕事は、生活をより良くするために、住民が行うことを理解している。 ②安来市の現状に関する複数の資料から、住みよい町になるための課題を適切に読み取っている。 ③地方公共団体の仕組みや住民の権利を、資料から読み取っている。 ④ゴミ処理施設建設の利点や課題について複数の資料から読み取っている。	⑤ゴミ処理施設建設に賛成か反対かを、予算・将来性・他市との比較などの点から比較・考察し根拠をもって判断している。 ⑥安来市のゴミ処理問題について、予算や将来性などに着目し、多面的・多角的に考察・構想し、解決策を考え表現している。 ⑦安来市の他の課題解決に向けて「協働」の概念を活用し、住み良い町にしていくための方法を考察する。	単元を貫く問いの予想に対して、毎時の学習内容を関連付けて、キーワードを基に振り返りをしようとしている。

6 評価の計画（全7時間）

	各時の問いや学習活動	評価の観点	評価の方法	支援が必要な生徒への手立て
第一時	なぜ、地方自治は「民主主義の学校」と言われているのか？	地方公共団体の仕事は、自分たちの生活をより良くするために、自分たちの手で行われていることを、身近な生活と関連付けてまとめている。（知識・技能）	ワークシート、発表	身近な自分たちの生活の具体的な場面を思い起こしてみるよう助言する。
第二時	自分たちの住む安来市の課題にはどんな事があるだろうか。	安来市の現状に関する資料から、住みよい町になるための課題を複数の資料を関連付けて読み取っている。（知識・技能）	ワークシート、発表	資料を関連付けて読み取るよう助言し、意見交換を促し、さまざまな視点で考察した意見に触れさせる。
第三時	安来市のゴミ処理問題を解決するために、どのようなしくみと方法があるのだろうか。	地方公共団体の仕組みや住民の権利にはどのようなものがあるか、複数の資料から関連付けて読み取っている。（知識・技能）	ワークシート、発表	資料を関連付けて読み取るよう助言し、意見交換を促し、さまざまな視点で考察した意見に触れさせる。
第四時	安来市に新たにゴミ処理施設を作ることの利点と課題とは何だろうか。	ゴミ処理施設建設の利点や課題について複数の資料を関連付けて読み取っている。（知識・技能）	ワークシート、話し合いの様子・発表	資料を関連付けて読み取るよう助言する。グループでの意見交換を促し、さまざまな視点で意見を考察させる。
第五時	安来市のゴミ処理施設建設について自分は賛成か反対か。	ゴミ処理施設に賛成か反対かを、予算・将来性・他市との比較などの点から比較・考察し根拠を持って判断し、まとめている。（思考・判断・表現）	ワークシート、話し合いの様子・発表	見方・考え方を助言し、グループでの意見交換を促し、より多くの視点で考察した意見に触れさせる。
第六時	安来市の課題を、どのように解決すべきだろうか？ ～ゴミ処理施設の建設をめぐる問題を通して～	安来市のゴミ処理問題について、予算や将来性などに着目し、多面的・多角的に考察・構想し、解決策を考え表現している。（思考・判断・表現）	ワークシート、話し合いの様子・発表	発表内容について見方・考え方を確認する。グループでの意見交換を促し、より多くの視点で考察した意見に触れさせる。
第七時	安来市の課題を、どのように解決すべきだろうか？	安来市の他の課題解決に向けて「協働」の概念を活用し、住み良い町にしていくための手段を考察する。（思考・判断・表現）	ワークシート、話し合いの様子・発表	前時までの学習を振り返り、「協働」の概念を想起するよう助言する。グループでの意見交換を促し、より多くの視点で考察した意見に触れさせる。

7 本時の学習（6／7時）

（1）目標

安来市のゴミ処理問題について、効率や公正（予算や将来性）など社会的な見方・考え方を取捨選択して、多面的・多角的に考察・表現させる。さらに、自助・公助・共助の考えに着目して「協働」の概念を活用し、安来市の課題の解決策を構想させる。

（2）展開

学習活動および予想される生徒の反応	教師の支援（○）・評価基準と方法（■）
(1) 前時までの学習を振り返る。 ゴミ処理施設建設について賛成か反対か、それぞれの資料から振り返り確認する。 (2) ごみ処理施設建設について、フリップに記入し発表する。 賛成 ・他の市町村と比べると、「ゴミの分別の不便さ」が解消する。 公正的に見ると平等感に欠けている。 ・将来的には、自分たちでゴミ処理できる方が効率的で良い。 ・人口減に伴う歳入減少の推移により、持続可能性の観点から見ると、安来市でゴミを処理すると経費の見通しがもてる。 反対 ・財政の推移を見て、財政難なので建設には無理がある。 ・現在の維持費と比べると、建設費がプラスされ、さらに維持費がかかる。財政面で見るとかなり厳しい。 ・ゴミの分別を楽にする前後を比べると、ごみの排出量が増える。 ・安来市の諸課題と比較すると、ゴミの問題よりも高齢化対策などにお金をかけた方が公正的に良い。 (3) もし、ゴミ処理施設を建設してゴミの分別問題を解消するならば、その場合、建設の主体は住民か行政か、グラフに割合を示し、理由を述べる。	○賛成・反対について、社会的な見方・考え方を取捨選択して活用できているか確認のため助言する時間をとる。 ○相手に立場選択の根拠を分かりやすく伝えるために、事前にキーワードをまとめたフリップを用意する。 ○発表の内容に見方・考え方を明確に示すことで、聞き方に疑問が出るようにする。 ○聞き方として、活用している見方・考え方を意識して発表を聞くよう助言する。 ■（イ）⑥フリップ、発表、ワークシート ○ゴミ処理施設建設の問題について、視覚的に示すことで、「協働」の概念を活用しやすくする。
安来市の課題を、どのように解決すべきだろうか？	
(4) もともとの住民の声であった「他市に比べて、分別が細かすぎて面倒だ」という問題の解決策や解決策の主体（住民か行政か）の割合と理由を考える。 予想される生徒の解決策 ・分別が細かすぎるメリットをよく知ってもらう。 ・とにかく住民の負担感を取る政策をする。（係をつくり、話を聞いてくれる場所を設置する。補助金により住民とゴミ回収業者の間に、組織をつくり分別を行う。ゴミ袋を買わなくてよい回収方法を考える。他市よりゴミ袋を安くする。） (5) 班で自分の割合と理由を発表し、意見交換して、よりよい「協働」になる割合を見つけ出し、理由を考えて発表する。	○解決策を考えるために、「負担感」というキーワードを提示する。住民は他市に比べて分別の負担感を感じているので、その負担感を少しでも解消できる方法を考える。 ○「協働」の割合の理由を考えることで、「互いに何ができるかを考え、より自分事とする。」 ○安来市の諸課題を解決する手段として、ゴミ分別問題を取り上げる。そして、他の課題を解決する手段の手がかりとする。 ○ホワイトボードに班の「協働」の割合と理由を書かせる。
(6) 次時の予告を聞く。「安来市の他の課題の解決策や、よりよい「協働」の割合と理由を考えてみよう。」	○次時に考える安来市の課題を簡単に振り返っておく。

（3）評価

【社会的思考・判断・表現】

（イ）⑥安来市のゴミ処理問題について、社会的な見方・考え方を取捨選択し、多面的・多角的に考察・表現することができたか。

十分満足できると判断される生徒の姿の具体例	・安来市のゴミ処理問題について、複数ある社会的な見方・考え方を取捨選択して活用し、それらを関連付けて多面的・多角的に考察・表現することができたか。
おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	・安来市のゴミ処理問題について、複数ある社会的な見方・考え方を取捨選択して活用し、多面的・多角的に考察・表現することができたか。